

南海商事 & 和歌山大学共同**世界遺産・熊野古道の旅行商品造成に取り組みます**
現役大学生が旅行プランを作成

南海グループの南海商事（社長：遠北 光彦）と和歌山大学（学長：山本 健慈）では、和歌山県の協力の下、共同で世界遺産・熊野古道周辺の旅行商品造成に5月22日（日）から取り組みます。

旅行商品造成にあたっては、南海商事が運営する古道歩き体験施設「古道歩きの里ちかつゆ」（所在地：和歌山県田辺市中辺路町）およびその周辺地域を和歌山大学観光学部の学生が視察し、熊野古道の魅力などを調査します。そして、学生が南海商事のスタッフと意見を交換しながら「古道歩きの里ちかつゆ」を経由した旅行プランを作成し、旅行会社に提案します。

同取組みを通じて南海商事では、学生ならではの視点から熊野古道の魅力を発掘してもらうことで周辺の活性化につなげていくことを目指します。一方和歌山大学では、旅行の企画体験を通じて、学生にマーケティングや経営の知識を学んでもらうことを目指します。

【スケジュールについて】

- 5月22日（日）：和歌山大学観光学部の学生（3回生8人、4回生11人、院生2人）および教員2人が「古道歩きの里ちかつゆ」およびその周辺地域を視察します。
- ～6月中旬：南海商事のスタッフとの意見交換会を交えながら、学生が旅行プランを作成します。
- ～6月下旬：旅行会社に対して学生が旅行プランを提案します。
旅行商品に決まった際の旅行会社との調整は、南海商事が行います。

<参 考>

- （1）同取組みは、和歌山県から熊野古道周辺の宿泊施設や観光スポットなどの情報提供を受けています。
- （2）和歌山大学では、8月下旬に韓国で開催される、日中韓の3カ国を中心とする観光学者の国際会議「東北亜観光学会」に参加し、同プロジェクトを通じて造成した旅行プランを発表します。

以 上